

令和2年7月10日

【照会先】

医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課
課長補佐 大澤 一利 (内線 2795)
係長 寺尾 航 (内線 2778)
(代表電話) 03(5253)1111
(直通電話) 03(3595)2454

報道関係者 各位

「第五次薬物乱用防止五か年戦略」フォローアップを公表しました ～大麻事犯の検挙人員が過去最多。約6割が30歳未満～

本日、厚生労働大臣を議長とし、関係閣僚で構成される薬物乱用対策推進会議^{※1}は、「第五次薬物乱用防止五か年戦略」フォローアップ^{※2}を公表しました。同時に、平成31・令和元年のわが国の薬物情勢にかかる統計指標^{※3}を集計し、公表しました。

これは、平成30年8月に同会議で策定した「第五次薬物乱用防止五か年戦略」の5つの目標（別添1参照）に関してフォローアップを行い、その状況や結果を取りまとめたものです。

厚生労働省では、今後も政府と一体になり、総合的な薬物対策を実施していきます。

【平成31・令和元年の主な薬物情勢】

- ①大麻事犯の検挙人員が6年連続増加し、過去最多を更新し、約6割が30歳未満の若年層であった。
- ②覚醒剤の検挙人員が44年ぶりに1万人を下回った一方で、覚醒剤の押収量が2トンを超え過去最多を記録した。
- ③密輸入事犯の検挙人員が過去最多を記録した。
- ④覚醒剤事犯の再犯者率が13年連続で過去最多を更新した。

※1 薬物乱用対策推進会議
議長の厚生労働大臣（平成29年4月～）を始めとし、関係各府省庁（副議長：国家公安委員長、法務大臣、財務大臣、文部科学大臣、国土交通大臣ほか構成員5名の計11名の大臣）から構成されている。

※2, 3 厚生労働省ホームページ内「薬物乱用対策」に掲載
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/iyakuhin/yakubutsuran_you_taisaku/index.html

- 別添1 「第五次薬物乱用防止五か年戦略」フォローアップの概要
別添2 統計指標
別添3 統計グラフ

「第五次薬物乱用防止五か年戦略」フォローアップの概要

令和 2 年 7 月 10 日
薬物乱用対策推進会議

[平成 31・令和元年の薬物情勢]

- 薬物事犯の検挙人員は、13,860 人（-462 人/-3.2%）と 2 年ぶりに減少した。うち、覚醒剤事犯の検挙人員は、8,730 人（-1,300 人/-13.0%）と昭和 50 年以来 44 年ぶりに 1 万人を下回った。一方、大麻事犯の検挙人員は、4,570 人（+808 人/21.5%）と 6 年連続で増加し、過去最多を更新した。
- 覚醒剤の押収量は、2,649.7 kg（+1,443 kg/+119.6%）と初めて 2 トンを超え、コカインの押収量は、639.9 kg（+482.5 kg/+306.5%）と前年より大幅に増加し、いずれも過去最多を更新した。乾燥大麻の押収量は、430.1 kg（+92.8 kg/+27.5%）と 4 年連続で増加し、MDMA 等錠剤型合成麻薬の押収量も、73,915 錠（+61,608 錠/+500.6%）と前年より大幅に増加した。
- 薬物密輸入事犯の検挙件数は、564 件（+181 件/+47.3%）と最多であった前年を上回り過去最多を更新し、検挙人員は 595 人（+221 人/+59.1%）と前年より大幅に増加して過去最多を更新した。
- 30 歳未満の検挙人員は、覚醒剤事犯は前年より減少したが、大麻事犯は 6 年連続で増加して過去最多を更新し、大麻事犯全体の検挙人員の 57.4%（+4.1P）であった。
- 覚醒剤事犯の再犯者率は、66.0%（+0.1P）と 13 年連続増加し、過去最高を更新した。
- 危険ドラッグ事犯の検挙人員は、200 人（-233 人/-53.8%）と前年より大幅に減少した。

目標 1 青少年を中心とした広報・啓発を通じた国民全体の規範意識の向上による薬物乱用未然防止

- 薬物の専門知識を有する各関係機関の職員等が連携し、学校等において薬物乱用防止教室を実施したほか、各種啓発資料の作成、配付、ウェブサイトへの掲載等を行った。〔文科・警察・財務・法務・厚労〕
- 新入社員等を対象とした薬物乱用防止講習や、児童・保護者等を対象とした出前講座の実施、有職・無職少年を対象とした薬物乱用防止読本の作成・配布、政府広報としてインターネットテレビやラジオ等による情報発信等、若年層に焦点を当てた広報啓発活動を実施した。〔内閣府・警察・総務・文科・厚労〕
- 各種運動、有識者による講演会、街頭キャンペーン等、地域住民を対象とした広報啓発活動を実施するとともに、ウェブサイトやリーフレット等の啓発資材に相談窓口を掲載し、広く周知した。〔内閣府・警察・消費者・法務・財務・文科・厚労〕
- 海外渡航者が安易に大麻に手を出さないよう、法規制や有害性を訴えるポスターを関係省庁の連名で作成し、ウェブサイトや SNS 等で注意喚起を実施した。〔警察・外務・財務・厚労〕

目標 2 薬物乱用者に対する適切な治療と効果的な社会復帰支援による再乱用防止

- 「依存症対策総合支援事業」により薬物依存症治療を実施する医療機関の整備を図るとともに、「依存症対策全国拠点機関設置運営事業」により医療従事者の依存症治療に対する専門的な能力の向上と人材養成を実施した。〔厚労〕
- 薬物事犯により検挙され、保護観察が付かない執行猶予判決を受けた者等に対して、再乱用防止プログラム、相談窓口の周知等を実施した。〔厚労・警察〕
- 矯正施設、保護観察所及び更生保護施設において、研修等の実施により職員の専門性向上を図るとともに、関係機関と連携して薬物依存症者に対する適切な薬物処遇と効果的な社会復帰支援を実施した。〔法務〕
- 保健所、精神保健福祉センター、民間支援団体等と連携して、薬物依存症者やその家族に対する治療・回復支援を実施した。〔法務・厚労〕

目標3 薬物密売組織の壊滅、末端乱用者に対する取締りの徹底及び多様化する乱用薬物等に対する迅速な対応による薬物の流通阻止

- 関係機関による合同捜査・共同摘発の推進、暴力団等薬物密売組織の中枢に位置する者に焦点を当てた取締りを推進し、平成31・令和元年中、首領・幹部を含む暴力団構成員等4,638人を検挙した。〔警察・財務・厚労・海保〕
- 平成31・令和元年中、麻薬特例法第11条等に基づく薬物犯罪収益等の没収規定を41人に、同法第13条に基づく薬物犯罪収益等の追徴規定を225人にそれぞれ適用し、没収・追徴額の合計は約5億2,393万円に上った。〔法務〕
- 乱用薬物鑑定の高高度化を図り、未規制物質や新たな形態の規制薬物の鑑定に対応するため、資機材の整備を実施するとともに、薬物分析手法にかかる研究・開発を推進し、会議等を通じ関係省庁間で情報共有を実施した。〔警察・財務・厚労・海保〕

目標4 水際対策の徹底による薬物の密輸入阻止

- 関係機関間において緊密な連携を取り、捜査手法を共有した結果、統一的な戦略の下に効果的、効率的な取締りが実施され、平成31・令和元年中、水際において、約3,318キログラムの不正薬物の密輸入を阻止した。〔警察・財務・厚労・海保〕
- 麻薬等原料物質に係る輸出入の動向等について、国連麻薬統制委員会（I N C B）と情報交換を行うとともに、麻薬等原料物質取扱業者に対し、関係機関と連携して、管理及び流通状況等にかかる合同立入検査等を実施した。〔厚労・経産・海保〕
- 訪日外国人の規制薬物持ち込み防止のため、関係省庁のウェブサイト等での注意喚起に加え、民間団体等に対して広報協力の働きかけを行うとともに、国際会議や在外関係機関を通じて広報・啓発を実施した。〔警察・財務・厚労・海保〕

目標5 国際社会の一員としての国際連携・協力を通じた薬物乱用防止

- 国際捜査共助等を活用し、国際的な共同オペレーションを進めた結果、薬物密輸入事案を摘発した。〔警察、財務、厚労、海保〕
- 第63会期国連麻薬委員会（CND）、アジア・太平洋薬物取締会議（A D E C）、第43会期アジア太平洋薬物取締機関長会議（H O N L E A）、第29回国際協力薬物情報担当者会議（A D L O M I C O）等の国際会議やその他専門家会合等に参加し、各国における薬物取締状況や薬物の密輸動向及び取締対策等に関する情報を入手するとともに、国際機関や諸外国関係者等と積極的な意見交換を行い、我が国の取組や考え方への理解の獲得に努めた。〔警察・外務・財務・厚労・海保〕

【当面の主な課題】

平成31年・令和元年の我が国の薬物情勢が密輸入事犯の検挙件数や水際での薬物押収量が過去最多となったことに加え、来年は、本年から延期された東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に伴い訪日外国人数の増加が見込まれることから、旅客に紛れた密輸入事犯が更に増加することが懸念される。こうした情勢を踏まえ、国内外の関係機関が連携を強化し、海外の密輸組織・密売組織と、国内の暴力団等犯罪組織との結節点の解明に努めるとともに、コントロールド・デリバリー捜査を積極的に活用するなど、徹底した水際対策を実施する必要がある。

また、昨今、若年層における大麻の乱用が拡大を続けていることに加え、大麻濃縮物や大麻を含有する食品等が摘発されるなど、乱用される大麻の形態の多様化が認められる。このため、大麻事犯の取締りの一層の強化はもとより、若年層や海外渡航者等の特定の対象者や対象薬物に焦点を当て、薬物の危険性・有害性に関する正しい知識の普及に努めるなど、広報・啓発活動をより効果的に実施する必要がある。

さらに、覚醒剤事犯の検挙人員は44年ぶりに1万人を切ったものの、覚醒剤事犯の再犯率は13年前から現在まで上昇し続け、13年前より11.7ポイント高い66%となっている。このような現状を踏まえ、薬物の再乱用防止を徹底するため、薬物乱用者に対する適切な治療と再乱用防止プログラムをより定着させるなど効果的な社会復帰支援をこれまで以上に強化する必要がある。

[参考データ]

●全薬物事犯検挙人員

(人)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1
検挙人員	14,965	14,200	13,881	13,292	13,437	13,887	13,841	14,019	14,322	13,860

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

(注) 覚醒剤、大麻、麻薬・向精神薬、あへん事犯の検挙人員の合計。

●覚醒剤事犯検挙件数、検挙人員

(件、人)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1
検挙件数	17,163	17,109	16,689	15,472	15,571	16,168	15,374	14,496	14,289	12,155
検挙人員	12,200	12,083	11,842	11,127	11,148	11,200	10,607	10,284	10,030	8,730

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●覚醒剤以外の薬物事犯検挙人員

(人)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1
大麻	2,367	1,759	1,692	1,616	1,813	2,167	2,722	3,218	3,762	4,570
麻薬・向精神薬	375	346	341	540	452	516	505	505	528	558
コカイン	112	99	66	48	66	103	153	185	217	213
ヘロイン	22	19	30	20	7	3	0	9	10	7
MDMA等錠剤型合成麻薬	93	86	40	22	35	29	37	41	57	90
あへん	23	12	6	9	24	4	7	12	2	2

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●薬物押収量

(kg、MDMA等錠剤型合成麻薬は錠)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1
覚醒剤	310.7	350.9	466.6	846.5	570.2	431.8	1,521.4	1,136.6	1,206.7	2,649.7
乾燥大麻	181.7	141.1	332.8	198.0	166.6	104.6	159.7	270.5	337.3	430.1
大麻樹脂	13.9	28.4	42.5	1.2	36.7	3.9	1.0	21.9	3.1	14.8
コカイン	7.2	28.8	6.9	124.1	2.3	18.6	113.3	11.6	157.4	639.9
ヘロイン	0.3	3.6	0.1	3.8	0.0	2.0	0.0	70.3	0.0	16.7
あへん	3.7	7.6	0.2	0.2	0.2	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0
MDMA等錠剤型合成麻薬	18,246	27,187	3,708	2,147	608	1,074	5,122	3,244	12,307	73,915

出典：警察庁、財務省、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●少年の覚醒剤事犯の検挙人員

(人)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1
総数	228	185	148	125	94	119	136	93	98	97
うち中学生	7	4	3	1	2	1	7	0	3	3
うち高校生	30	25	22	15	12	14	18	8	13	10

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●少年及び20歳代の覚醒剤事犯の検挙人員

(人)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1
総数	2,642	2,420	2,131	1,682	1,489	1,556	1,437	1,334	1,285	1,151
うち少年	228	185	148	125	94	119	136	93	98	97
うち20歳代	2,414	2,235	1,983	1,557	1,395	1,437	1,301	1,241	1,187	1,054

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●少年の大麻事犯の検挙人員

(人)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1
総数	164	82	67	61	80	144	211	301	434	615
うち中学生	11	1	0	0	3	3	2	2	7	6
うち高校生	18	15	18	10	18	24	32	53	74	110

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●少年及び20歳代の大麻事犯の検挙人員

(人)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1
総数	1,396	926	809	712	745	1,049	1,237	1,519	2,007	2,622
うち少年	164	82	67	61	80	144	211	301	434	615
うち20歳代	1,232	844	742	651	665	905	1,026	1,218	1,573	2,007

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●覚醒剤事犯検挙人員に占める暴力団関係者数

(人、%)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1
検挙人員	12,200	12,083	11,842	11,127	11,148	11,200	10,607	10,284	10,030	8,730
うち暴力団関係者	6,361	6,594	6,421	6,112	6,066	5,758	5,114	4,796	4,687	3,777
構成比 (%)	52.1	54.6	54.2	54.9	54.4	51.4	48.2	46.6	46.7	43.3

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●薬物乱用防止教室の開催状況

(校、%)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
小学校	開催校数	12,513	13,180	13,890	14,401	15,418	15,734	15,886	15,747	15,467
	開催率	62.3	62.6	65.9	67.1	72.3	76.4	77.3	79.1	78.6
中学校	開催校数	7,888	8,566	8,745	8,945	9,519	9,351	9,541	9,328	9,190
	開催率	79.1	81.6	82.7	82.8	88.3	89.2	91.0	91.0	90.6
義務教育学校	開催校数						25	85	151	
	開催率						100.0	83.3	91.0	
高等学校	開催校数	3,663	3,835	3,850	3,883	3,980	3,995	4,104	4,092	4,004
	開催率	78.8	79.0	80.2	81.3	83.6	84.7	86.3	86.4	85.8
中等教育学校	開催校数	29	32	34	38	37	39	40	68	78
	開催率	63.0	66.7	70.8	77.6	75.5	78.0	76.9	66.7	76.5

出典：文部科学省調べ ※H22は東日本大震災のため、岩手県、宮城県、福島県を除いた結果

●覚醒剤事犯における再犯者率

(人、%)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1
検挙人員	12,200	12,083	11,842	11,127	11,148	11,200	10,607	10,284	10,030	8,730
うち再犯者数	7,206	7,152	7,232	6,989	7,190	7,237	6,879	6,740	6,613	5,765
比率 (%)	59.1	59.2	61.1	62.8	64.5	64.6	64.9	65.5	65.9	66.0

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●出所受刑者の2年以内再入率（覚せい剤取締法違反）

(人、%)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
出所受刑者人員	6,467	6,334	6,422	6,649	6,788	6,456	6,184	6,144	6,134
うち2年以内再入者数	1,382	1,279	1,286	1,316	1,324	1,338	1,187	1,149	1,061
比率 (%)	21.4	20.2	20.0	19.8	19.5	20.7	19.2	18.7	17.3

出典：法務省調べ

●薬物密輸入事犯検挙件数・検挙人員

(件、人)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	
覚醒剤	件数	136	189	127	127	154	78	85	130	137	293
	人員	163	222	179	181	180	102	108	159	172	357
大麻	件数	25	34	50	47	42	67	49	89	107	123
	人員	26	34	69	51	43	64	52	77	94	122
麻薬・ 向精神薬	件数	33	27	37	70	66	129	86	108	139	148
	人員	33	24	41	61	76	125	87	80	108	116
あへん	件数	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	人員	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0
合計	件数	196	251	215	245	262	274	220	327	383	564
	人員	224	281	290	294	299	291	247	316	374	595

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●危険ドラッグ事犯検挙人員

(人、%)

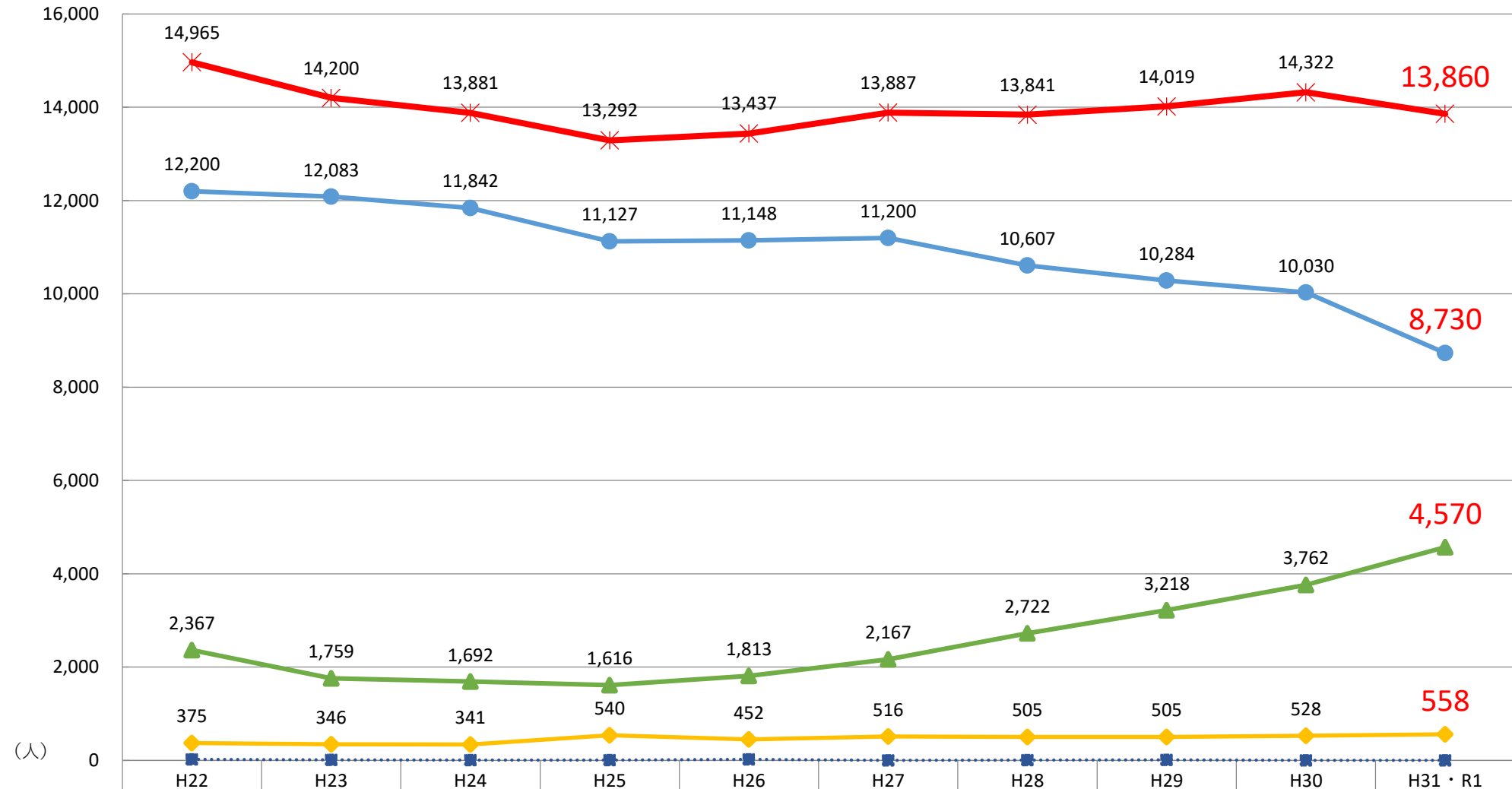
	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1
指定薬物に係る医薬品医療機器法違反	549	1,040	826	653	383	183
うち少年	18	28	10	2	1	1
構成比 (%)	3.3	2.7	1.2	0.3	0.3	0.5
医薬品医療機器法違反以外の法令違反	348	236	162	73	50	17
うち少年	9	2	4	0	0	1
構成比 (%)	2.6	0.8	2.5	0	0	5.9
合計	897	1,276	988	726	433	200
うち少年	27	30	14	2	1	2
構成比 (%)	3.0	2.6	1.4	0.3	0.2	1.0

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

(注) 医薬品医療機器法違反以外の法令違反とは麻薬及び向精神薬取締法違反、交通関連法令等。

薬物事犯検挙人員の推移

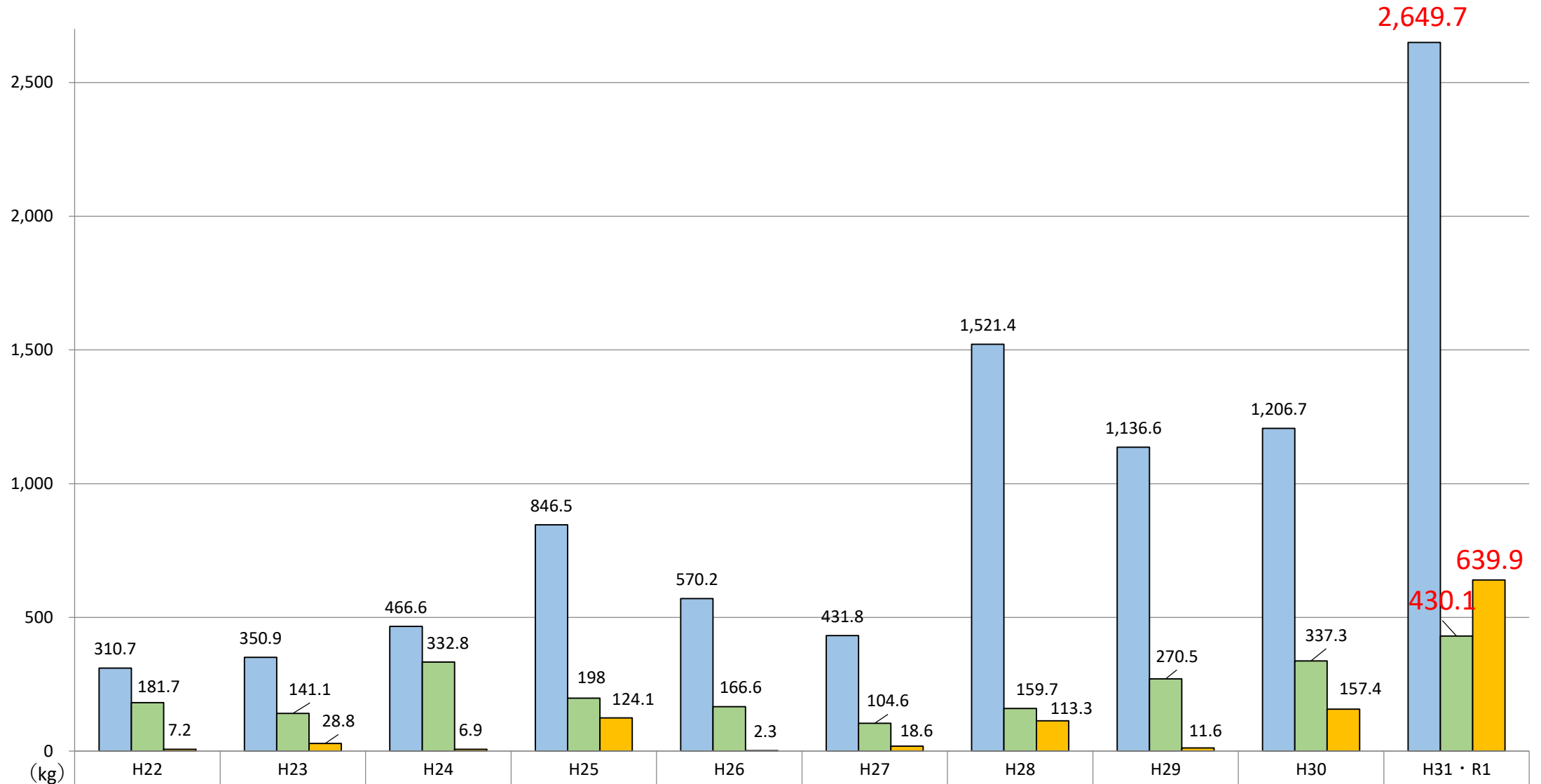
- 覚醒剤事犯の検挙人員は、**44年ぶりに1万人を下回った**
- 大麻事犯の検挙人員は、**6年連続で増加して過去最多を更新**



● 覚醒剤	12,200	12,083	11,842	11,127	11,148	11,200	10,607	10,284	10,030	8,730
▲ 大麻	2,367	1,759	1,692	1,616	1,813	2,167	2,722	3,218	3,762	4,570
◆ 麻薬・向精神薬	375	346	341	540	452	516	505	505	528	558
●●● あへん	23	12	6	9	24	4	7	12	2	2
✱ 全薬物事犯	14,965	14,200	13,881	13,292	13,437	13,887	13,841	14,019	14,322	13,860

薬物押収量の推移

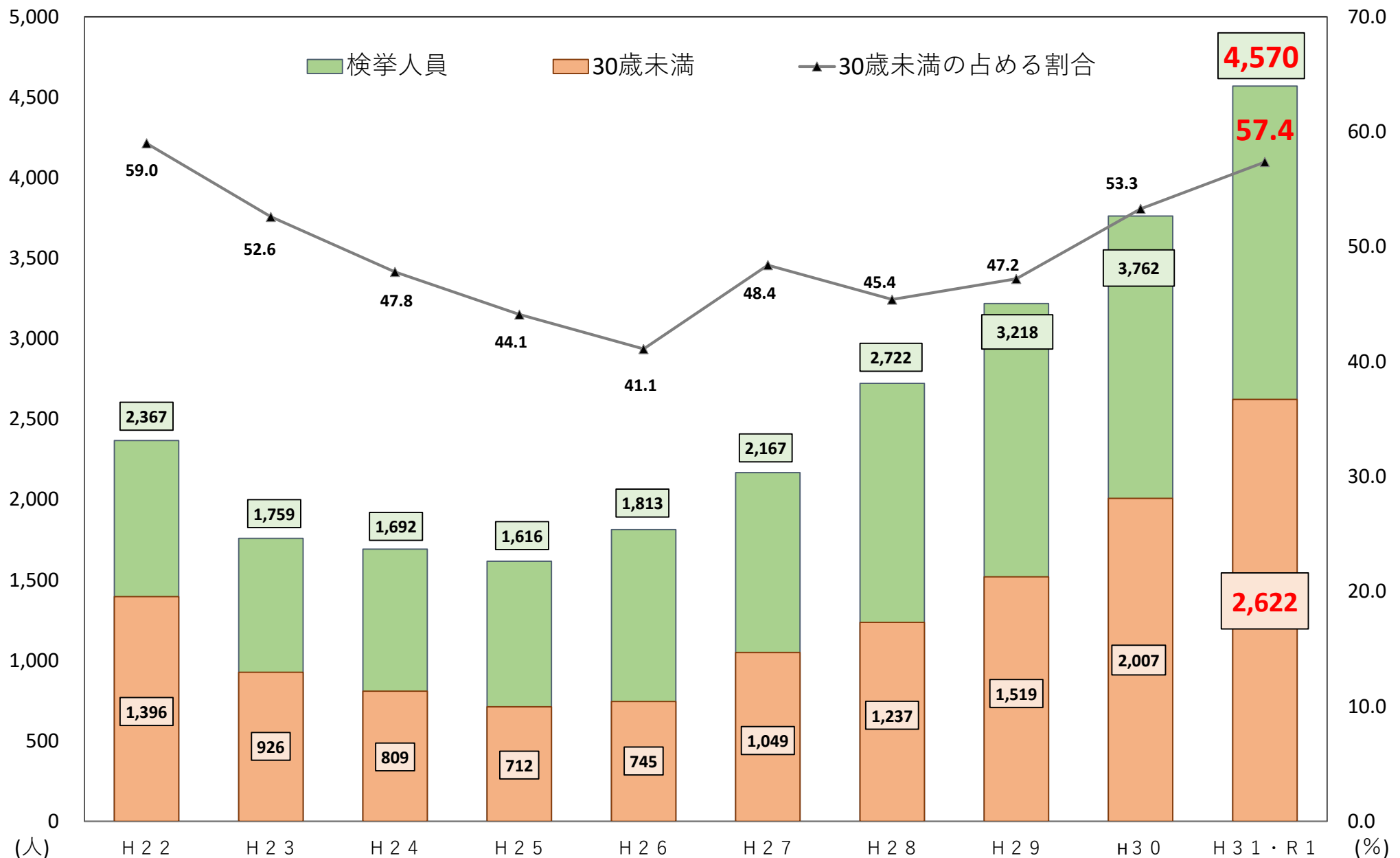
- 覚醒剤押収量は前年より大幅に増加して2,649.7kgとなり、初めて2トンを超えた
- 乾燥大麻押収量は、4年連続で増加
- コカイン押収量は前年より大幅に増加し、過去最多を更新



覚醒剤	310.7	350.9	466.6	846.5	570.2	431.8	1,521.4	1,136.6	1,206.7	2,649.7
乾燥大麻	181.7	141.1	332.8	198	166.6	104.6	159.7	270.5	337.3	430.1
コカイン	7.2	28.8	6.9	124.1	2.3	18.6	113.3	11.6	157.4	639.9

大麻事犯の検挙人員及び30歳未満の割合

- 大麻事犯全体の検挙人員及び30歳未満の検挙人員は、**6年連続で増加し、いずれも過去最多を更新**
- 大麻事犯の検挙人員のうち、**30歳未満の占める割合は57%**



薬物密輸入事犯検挙人員の推移

- 薬物密輸入事犯の検挙人員は、**過去最多を更新**
- 薬物密輸入事犯のうち、覚醒剤密輸入事犯の検挙人員は、**過去最多を更新**
- **1トンを超える覚醒剤を押収した事件等、大型密輸入事件を複数摘発**

